

(別紙様式) ※この様式は全施設提出してください。

健康福祉サービス自己評価実施状況報告書

平成31年3月1日

滋賀県健康医療福祉部子ども・青少年局長 様

(所在地) 滋賀県高島市今津町上弘部1231番地1

(施設名) 社会福祉法人近江愛隣会

愛隣こども園

(代表者職・氏名) 理事長 高木 勝己



健康福祉サービス自己評価を「本県における健康福祉サービス評価システムの推進について」により実施しましたので、下記のとおり報告します。

記

1 施設の名称

幼保連携型認定こども園 愛隣こども園

2 評価基準 (いずれかの番号に○)

(1) 県が定めた保育所サービス評価基準

(2) 園独自に定めた評価基準

(3) その他 (具体的に:)

※ (2) を選択された場合は、評価基準を1部添付してください。

3 評価実施体制

① サービス評価委員会 (いずれかに○)

設置 ・ 未設置

② 評価委員 (評価委員として参画した職員に○)

施設長 ・ 主幹保育教諭 ・ 指導保育教諭 ・ 保育教諭

その他 (副園長 栄養士) 合計 18名

③ 実施方法 (具体的に記入すること。)

1. 正職員を対象に、それぞれが「保育所サービス自己評価基準」に沿って評価を実施。
2. 事前に結果を集約し、職員会議で合議の上評価結果をまとめる。
3. 改善計画を立てる

4 自己評価の実施時期（自己評価結果をとりまとめた時期）

平成31年2月

5 県のホームページ等で、自己評価を実施した施設の名称、所在地、実施時期、施設での評価結果等の公表の有無を情報提供することについて（いずれかに○）

- ① 施設の名称・所在地 提供してもよい ・ 提供しない
② 実施時期・評価結果等公表の有無 提供してもよい ・ 提供しない

※ 情報提供されない場合は、理由を記載願います。

[]

6 (a) 「評価結果」公表の有無（いずれかに○）

- ① 県庁（子ども・青少年局）への送付 する ・ しない
② 市町への送付 する ・ しない
③ 滋賀県健康福祉事務所等への送付 する ・ しない
④ 施設・事業所内での閲覧提供 する ・ しない
⑤ その他の方法での公表（具体的に：)

※ ①～⑤のいずれの方法でも公表されない場合は、理由を記載願います。

[]

①で「する」を選択された場合は、評価結果を1部添付してください。

6 (b) 「サービス改善計画」公表の有無（計画を策定した場合のみ記入。いずれかに○）

- ① 県庁（子ども・青少年局）への送付 する ・ しない
② 市町への送付 する ・ しない
③ 滋賀県健康福祉事務所等への送付 する ・ しない
④ 施設・事業所内での閲覧提供 する ・ しない
⑤ その他の方法での公表（具体的に：)

※ ①～⑤のいずれの方法でも公表されない場合は、理由を記載願います。

[]

①で「する」を選択された場合は、施設で策定したサービス改善計画1部を添付してください。

7 自己評価を実施して感じたこと、評価基準・ガイドライン等への意見やサービス評価について今後望むこと（書ききれない場合は別紙を添付）

今回改正された評価基準は、評価が難しい印象を受けました。一斉に実施したところ職員が答えにくい項目があったので、次回は評価項目を割り当てる方法を取り入れます。

以上、ご協力ありがとうございました。

保育所サービス評価結果記入様式

評価実施日 (H31.2.14)

施設名 (愛隣こども園)

評価基準	評価項目ごとの 評価結果	総合所見	
		園の特徴、特色など評価できる事項	今後、取り組むべき検討課題など
共通評価基準			
I. 福祉サービスの基本方針と組織			
I-1 理念・基本方針			
I-1-(1) 理念、基本方針が確立・周知されている。			
(1) I-1-(1)-① 理念、基本方針が明文化され周知が図られている	Ⓐ b c	「隣人愛」の精神を基本理念とし、人を愛する心、感謝の心、丈夫な身体を涵養し、豊かな人間性を持った子どもを育む保育に努めている。保護者にも入園説明会等で周知を図っている。	
I-2 経営状況の把握			
I-2-(1) 経営環境の変化等に適切に対応している。			
(2) I-2-(1)-① 事業経営をとりまく環境と経営状況が的確に把握・分析されている。	a Ⓑ c	地域の子どもが減少していることや、新卒者の求人や若い職員の離職の問題など保育士確保に難航していることが課題としてあげられる。状況は把握しているものの分析・取り組みが十分とは言えない。	
(3) I-2-(1)-② 経営課題を明確にし、具体的な取り組みを進めている。	a Ⓑ c		
I-3 事業計画の策定			
I-3-(1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。			
(4) I-3-(1)-① 中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている。	a b Ⓒ	法人として、計画のイメージは持っているが具体的に中・長期を見据えた計画ができていない。よって、単年度の事業計画・収支計画は策定しているものの、それを反映したものではない。	
(5) I-3-(1)-② 中・長期計画を踏まえた単年度の計画が策定されている。	a b Ⓒ		
I-3-(2) 事業計画が適切に策定されている。			
(6) I-3-(2)-① 事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われ、職員が理解している。	Ⓐ b c	理事会・評議員会は組織として機能しており、役員会での決定事項は、職員会議で必ず報告している。	
(7) I-3-(2)-② 事業計画は、保護者等に周知され、理解を促している。	Ⓐ b c		
I-4 福祉サービスの質の向上への組織的・計画的な取組			
I-4-(1) 質の向上に向けた取組が組織的・計画的に行われている。			
(8) 保育の質の向上に向けた取組が組織的に行われ、機能している。	Ⓐ b c	サービス自己評価を正規職員が参加して、年1回実施している。評価結果を分析し、課題は改善するよう努力している。職員が運営や保育内容を見直す機会となっている。	
(9) I-4-(1)-② 評価結果にもとづき保育所として取組むべき課題を明確にし、計画的な改善策を実施している。	Ⓐ b c		
II 組織の運営管理			
II-1 管理者の責任とリーダーシップ			
II-1-(1) 管理者の責任が明確にされている。			
(10) II-1-(1)-① 施設長は、自らの役割と責任を職員に対して表明し理解を図っている。	a Ⓑ c		施設長として責任をもって職務に就いているが、もっと職員のニーズを知り、役割を理解してもらえよう努力していく。

評価基準	評価項目ごとの 評価結果	総合所見	
		園の特徴、特色など評価できる事項	今後、取り組むべき検討課題など
(11) II-1-(1)-② 遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行っている。	a (b) c	園長は保育の向上に意欲的にかかわり、主幹保育教諭等とともに月1回「運営会議」を開き、職員会議に諮る議題などを事前に検討する等、執行部としての役割を發揮している。	職員が管理職に求める指導力が計り知れず、今後も面談などを通して職員一人一人の思いを汲み取り実行できるよう努力する。
II-1-(2) 管理者のリーダーシップが發揮されている。			
(12) II-1-(2)-① 保育の質の向上に意欲をもちその取組に指導力を發揮している。	a (b) c		
(13) II-1-(2)-② 経営の改善や業務の実行性を高める取組に指導力を發揮している。	a (b) c		
II-2 福祉人材の確保・育成			
II-2-(1) 福祉人材の確保・育成計画、人事管理の体制が整備されている。			園児数や職員の異動を早めに把握し、必要に応じて養成校やハローワークに求人を出し、保育士を募集するが、平成30年度は応募がなかった。市内からだけでなく市外からも応募があるように求人の条件を見直す必要を感じている。
(14) II-2-(1)-① 必要な福祉人材の確保・定着等に関する具体的な計画が確立し、取組が実施されている。	a (b) c	年に一回、園長と職員の面談の機会を作り意向を聞き取り、可能な範囲で職場環境の改善に努めている。	
(15) II-2-(1)-② 総合的な人事管理が行われている。	(a) b c		
II-2-(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。			
(16) II-2-(2)-① 職員の就業状況や意向を把握し、働きやすい職場づくりに取組んでいる。	(a) b c	キャリアアップの仕組みが構築できたので、職員も今後の目標がイメージしやすくなった。	
II-2-(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。			
(17) II-2-(3)-① 職員一人一人の育成に向けた取組を行っている。	a (b) c		
(18) II-2-(3)-② 職員の教育・研修に関する基本方針や計画が策定され、教育・研修が実施されている。	(a) b c	職員の研修等については、保育の現場に支障がないように配慮しながら、すべての職員に対してバランスよく研修の機会を確保している。	
(19) II-2-(3)-③ 職員一人一人の教育・研修の機会が確保されている。	(a) b c		
II-2-(4) 実習生等の福祉サービスに関わる専門職の研修・育成が適切に行われている。		担当者が事前のオリエンテーションで、実習生の意欲等を汲み取り、適切な実習ができるよう配慮している。実習生から学ぶ姿勢も大切にしている。	
(20) II-2-(4)-① 実習生等の保育に関わる専門職の研修・育成について体制を整備し、積極的な取組をしている。	(a) b c		
II-3 運営の透明性の確保			
II-3-(1) 運営の透明性を確保するための取組が行われている。			職員の回答が少ない項目だった。職員への周知が十分にできていなかったと反省。
(21) II-3-(1)-① 運営の透明性を確保するための情報公開が行われている。	(a) b c	園のホームページへの掲載と、園の玄関にファイルをおき、自由に閲覧できるよう情報公開している。	
(22) II-3-(1)-② 公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組が行われている。	(a) b c		

評価基準	評価項目ごとの 評価結果	総合所見	
		園の特徴、特色など評価できる事項	今後、取り組むべき検討課題など
<p>II-4 地域との交流、地域貢献</p> <p>II-4-(1) 地域との関係が適切に確保されている。</p> <p>(23) II-4-(1)-① 子どもと地域との交流を広げるための取組を行っている。</p>	<p>○ a b c</p>	<p>園外保育として福祉施設訪問や市内の公園へ園バスで行ったり、地域の夏祭りなどの行事へ積極的に参加し交流を広げている。</p> <p>ボランティアの受け入れは主幹保育教諭が担当し、受け入れるに当たって秘密厳守など注意してほしいことを明示している。</p> <p>子どもを取り巻く危険から守るための機関や子どもの発達に対して相談できる機関など、行政・民間を問わず連携を密にし情報交換をしている。</p> <p>一時預かり事業、子育て支援事業、療育相談事業などを行っている。</p> <p>施設の広い駐車場を近隣の団体の行事の際、開放している。</p>	
<p>(24) II-4-(1)-② ボランティア等の受け入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。</p>	<p>○ a b c</p>		
<p>II-4-(2) 関係機関との連携が確保されている。</p> <p>(25) II-4-(2)-① 保育所として必要な社会資源を明確にし、関係機関等との連携が適切に行われている。</p>	<p>○ a b c</p>		
<p>II-4-(3) 地域の福祉向上のための取組を行っている。</p> <p>(26) II-4-(3)-① 保育所が有する機能を地域に還元している。</p>	<p>○ a b c</p>		
<p>(27) II-4-(3)-② 地域の福祉ニーズにもとづく公益的な事業・活動が行われている。</p>	<p>○ a b c</p>		
<p>III 適切な福祉サービスの実施</p> <p>III-1 利用者本位の福祉サービス</p> <p>III-1-(1) 利用者を尊重する姿勢が明示されている。</p> <p>(28) III-1-(1)-① 子どもを尊重した保育について共通の理解をもつための取組を行っている。</p>	<p>○ a b c</p>	<p>「個人情報保護規定」があり、職員全員が周知している。</p> <p>園のホームページを開設している。また、入園希望者向けに園の見学を兼ねて園独自の説明会の日を設けている。</p> <p>「入園のしおり」に重要事項を集約し、利用の際保護者に説明し同意を得ている。</p>	<p>春に実施する懇談だけでなく、子どもの姿も変わるので2学期末にも実施してはどうかという意見があった。</p>
<p>(29) III-1-(1)-② 子どものプライバシー保護等の権利擁護に配慮した保育が行われている。</p>	<p>○ a b c</p>		
<p>III-1-(2) 福祉サービスの提供に関する説明と同意（自己決定）が適切に行われている。</p> <p>(30) III-1-(2)-① 利用希望者に対して保育所選択に必要な情報を積極的に提供している。</p>	<p>○ a b c</p>		
<p>(31) III-1-(2)-② 保育の開始・変更にあたり保護者等にわかりやすく説明している。</p>	<p>○ a b c</p>		
<p>(32) III-1-(2)-③ 保育所等の変更にあたり保育の継続性に配慮した対応を行っている。</p>	<p>○ a b c</p>		
<p>III-1-(3) 利用者満足の向上に努めている。</p> <p>(33) III-1-(3)-① 利用者満足の向上を目的とする仕組みを整備し、取組を行っている。</p>	<p>○ a b c</p>	<p>年度末に「保護者アンケート」を実施。</p>	

評価基準	評価項目ごとの 評価結果	総合所見		
		園の特徴、特色など評価できる事項	今後、取り組むべき検討課題など	
Ⅲ-1-(4) 利用者が意見等を述べやすい体制が確保されている。				
(34) Ⅲ-1-(4)-① 苦情解決の仕組みが確立しており、周知・機能している。	(a) b c	苦情解決の仕組みを確立し、保護者へも入園のしおりや掲示物等で周知している。相談等の方法として、意見箱を設置したり、連絡ノート・個別懇談・電話相談などを行っている。意見等については、職員会議で共有し迅速に対応する努力はしている。	苦情に対しては、職員が複数で対応するよう気を付ける。	
(35) Ⅲ-1-(4)-② 保護者が相談や意見を述べやすい環境を整備し、保護者等に周知している。	(a) b c			
(36) Ⅲ-1-(4)-③ 保護者からの相談や意見に対して、組織的かつ迅速に対応している。	(a) b c			
Ⅲ-1-(5) 安心・安全な福祉サービスの提供のための組織的な取組が行われている。				
(37) Ⅲ-1-(5)-① 安心・安全な福祉サービスの提供を目的とするリスクマネジメント体制が構築されている。	(a) b c	園内のヒヤリハット事例を共有し、必要あれば要因を分析し、事故の防止に努める。建物・遊具等の安全点検を、2週間に1回クラス担任が交代で点検し、複数の目でチェックしている。		
(38) Ⅲ-1-(5)-② 感染症の予防や発生時における子どもの安全確保のための体制を整備し、取組を行っている。	(a) b c			
(39) Ⅲ-1-(5)-③ 災害時における子どもの安全確保のための取組を組織的に行っている。	(a) b c			
Ⅲ-2 福祉サービスの質の確保				
Ⅲ-2-(1) 提供する福祉サービスの標準的な実施方法が確立している。				
(40) Ⅲ-2-(1)-① 保育について標準的な実施方法が文書化され保育が提供されている。	(a) b c	指導計画の評価は定期的に園長・主幹保育教諭が担当している。0・1歳児と支援が必要な園児には、個別指導計画を作成している。発達の経過や保育を振り返ることができ、次の計画にも反映することができる。		急な嘔吐に対応するために、各クラスに「嘔吐処理セット」を備えているが、使い方が統一できていないため、毎年園内研修等で再確認する必要がある。
(41) Ⅲ-2-(2)-② 標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。	(a) b c			
Ⅲ-2-(2) 適切なアセスメントにより福祉サービス実施計画が策定されている。				
(42) Ⅲ-2-(2)-① アセスメントにもとづく指導計画を適切に策定している。	(a) b c			
(43) Ⅲ-2-(2)-② 定期的に指導計画の評価・見直しを行っている。	(a) b c			
Ⅲ-2-(3) 福祉サービス実施の記録が適切に行われている。				
(44) Ⅲ-2-(3)-① 子どもに関する保育の実施状況の記録が適切に行われ、職員間で共有化されている。	(a) b c	幼稚園部も保育園部と同じように「児童票」に保育経過を記録している。取り扱いについては、十分注意するよう職員に周知している。		
(45) Ⅲ-2-(3)-② 子どもに関する記録の管理体制が確立している。	(a) b c			

評価基準	評価項目ごとの 評価結果	総合所見			
		園の特徴、特色など評価できる事項	今後、取り組むべき検討課題など		
内容評価基準					
IV-1 保育内容					
IV-1-1 全体的な計画（保育課程）の編成					
(46) IV-1-1-1-① 保育所の理念、保育の方針や目標に基づき、子どもの心身の発達や家庭及び地域の実態に応じて全体的な計画（保育課程）を編成している。	(a) b c	遊び・食事・午睡・排泄等、活動に応じて仕切りをするなど、園児が心地よく過ごせるようにそれぞれの環境を工夫している。 自分でできることが増えるよう、子どもの目線や成長に合わせた環境に配慮している。また、必要に応じて援助したり、子どものやる気を育てるために見守ったりと、様々な保育を展開している。 0・1歳児は、安定した環境の中で保育者との愛着関係が築けるよう「担当制」を取り入れている。他園から学び、園の環境に合わせた担当制が確立しつつある。	教育・保育課程は園の理念や地域の実態の合わせて作成されているが、幼保連携認定こども園では「全体的な計画」を作成する必要があると指導を受け、次年度に向けて作成中である。		
IV-1-2 環境を通して行う保育、養護と教育の一体的展開					
(47) IV-1-2-1-① 生活にふさわしい場として、子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している。	(a) b c				
(48) IV-1-2-2-② 一人一人の子どもを受容し、子どもの状態に応じた保育を行っている。	(a) b c				
(49) IV-1-2-3-③ 子どもが基本的な生活習慣を身につけることができる環境の整備、援助を行っている。	(a) b c				
(50) IV-1-2-4-④ 子どもが主体的に活動できる環境を整備し、子どもの生活と遊びを豊かにする保育を展開している。	(a) b c				
(51) IV-1-2-5-⑤ 乳児保育（0歳児）において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	(a) b c				
(52) IV-1-2-6-⑥ 3歳未満児（1・2歳児）の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	(a) b c				
(53) IV-1-2-7-⑦ 3歳以上児の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	(a) b c				
(54) IV-1-2-8-⑧ 障害のある子どもが安心して生活できる環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	(a) b c				
(55) IV-1-2-9-⑨ 長時間にわたる保育のための環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	(a) b c	就学に期待が持てるよう配慮しながら、話を聞く姿勢や文字・数に興味関心が向くように、生活や遊びの中に取り入れている。	地理的に小学校と離れているため交流は少ないが、認定こども園ならもっと小学校との連携が必要と感じている。他園の先進的な取り組みの実態を把握して学び、こども園から積極的にかかわるように取り組む。		
(56) IV-1-2-10-⑩ 小学校との連携、就学を見通した計画に基づく、保育の内容や方法、保護者との関わりに配慮している。	(a) b c				
IV-1-3 健康管理					
(57) IV-1-3-1-① 子どもの健康管理を適切に行っている。	(a) b c				
(58) IV-1-3-2-② 健康診断・歯科健診の結果を保育に反映している。	(a) b c				

評価基準	評価項目ごとの 評価結果	総合所見	
		園の特徴、特色など評価できる事項	今後、取り組むべき検討課題など
(59) IV-1-(3)-③ アレルギー疾患、慢性疾患等のある子どもについて、医師からの指示を受け適切な対応を行っている。	Ⓐ b c	食物アレルギーのある子どもに対して「生活管理表」に主治医から指示をいただき、個々の年齢・症状に応じた除去食で丁寧にかかわっている。	
<u>IV-1-(4) 食事</u>			
(60) IV-1-(4)-① 食事を楽しむことができるよう工夫をしている。	Ⓐ b c		
(61) IV-1-(4)-② 子どもがおいしく安心して食べることのできる食事を提供している。	Ⓐ b c		
<u>IV-2 子育て支援</u>		心配な家庭のケースは園長に報告がある。園長は関係機関に相談し、職員間でも共有する。	
<u>IV-2-(1) 家庭との緊密な連携</u>			
(62) IV-2-(1)-① 子どもの生活を充実させるために、家庭との連携を行っている。	Ⓐ b c		
<u>IV-2-(2) 保護者等の支援</u>			
(63) IV-2-(2)-① 保護者が安心して子育てができるよう支援を行っている。	Ⓐ b c		
(64) IV-2-(2)-② 家庭での虐待等権利侵害の疑いのある子どもの早期発見・早期対応及び虐待の予防に努めている。	Ⓐ b c		
<u>IV-3 保育の質の向上</u>		毎日の保育を振り返り、反省を記録して次の保育に活かそうとする姿勢がみられる。	中には、保育の改善や技術の向上に十分に活かされていないと評価する職員があった。この自己評価で、再度自分の保育を見直す機会となった。
<u>IV-3-(1) 保育実践の振り返り (保育士等の自己評価)</u>			
(65) IV-3-(1)-① 保育士等が主体的に保育実践の振り返り (自己評価) を行い、保育実践の改善や専門性の向上に努めている。	Ⓐ b c		

サービス改善計画書

策定日： 平成31年2月22日

事業・サービス名： 認定こども園

施設・事業所名： 愛隣こども園

自己評価項目	評価結果	問題点・課題	改善内容と目標	時期と期間	責任者	備考(必要な予算)
<p>I-2 経営状況の把握</p> <p>(2)事業経営を取り巻く環境と経営状況が的確に把握・分析されている。</p> <p>(3)経営課題を明確にし、具体的な取り組みを進めている。</p>	<p>b</p>	<p>地域の子どもが減少していることや、新卒者の求人や若い職員の離職問題など保育士確保に難航している。その分析と取り組みが十分でない。</p>	<p>園独自の入園説明会やホームページなどを充実させ、園の魅力をアピールしていく。</p> <p>求人方法を考える。</p> <p>職員の処遇改善など、働きやすい職場の環境を作る。</p>	<p>随時</p>	<p>園長 副園長</p>	
<p>I-3 事業計画の策定</p> <p>(4)中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている。</p> <p>(5)中・長期計画を踏まえた単年度の計画が策定されている。</p>	<p>C</p>	<p>法人として計画のイメージは持っているが、具体的に中・長期を見据えた計画ができていない。</p>	<p>計画のイメージを具体化する。</p>	<p>年度末</p>	<p>理事長 園長</p>	

<p>Ⅱ-2 福祉人材の確保・育成 (14)必要な福祉人材の確保・定着等に関する具体的な計画が確立し、取り組みが実施されている。</p> <p>(17)職員一人一人の育成に向けた取り組みを行っている。</p>	<p>b</p> <p>b</p>	<p>新卒者・既卒者を対象に養成校やハローワークに求人を出すのが、平成30年度は応募がなかった。</p> <p>キャリアアップの仕組みが構築でき、職員も個々の目標をイメージしやすくなった。しかし、若い職員が離職傾向にあり、継続した育成が難しい。</p>	<p>市内だけでなく、市外・県外からも応募があるように求人の方法や条件を見直す必要を感じている。</p> <p>可能な限りこの事業は継続する。 職員の処遇改善や働きやすい職場環境を整える。</p>	<p>夏から秋 または、一年中</p> <p>随時</p>	<p>園長</p> <p>園長 副園長 主幹保育教諭</p>	<p>処遇改善加算Ⅰ および 処遇改善加算Ⅱ</p>
--	-------------------	--	--	-----------------------------------	--	------------------------------------